



学校だより

# やまゆり

2018年2月号  
平成30年2月1日  
横浜市立大口台小学校

## 「いじめ」をしない・見過ごさない

副校長 堀口 直明

1月末にユニセフの募金活動を運営委員会が中心となって行い、たくさんの募金が集まりました。ありがとうございました。今一度「あの募金はどんなことに使われるの?」と聞いてみてください。そして「わからない」という答えだったら、「じゃあ、聞いてきてね。」と返してください。「わからないでお金をもっていったの?」と言いたくなるのをぐっとこらえて。こんな一つひとつのやりとりが学習です。

何に使われるか具体的にはわからなくても、「困っている人に使われるらしい。」ということは子どもたちもわかっています。困っている人は助けなくては、という優しい心を、目の前の友達に向けることがいじめをなくす第一歩です。どんな言葉や行動が人を傷つけるのか、これからも子どもたちと考えていきます。

児童支援専任 養護教諭 吉澤 千春

平成30年2月1日に「大口台小学校いじめ防止基本方針」を改訂しました。今回の改訂は、横浜市の「いじめ防止基本方針」を受けての改訂です。本校では、下記に記した「いじめの定義」を理解し、「いじめを絶対に許さない」という意識を徹底し、児童や保護者と共に、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組んでいきます。

### いじめの定義

「児童に対して、当該児童が在籍する本校に在籍している等当該児童と一定の人的関係にある他の児童が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているもの」

（文部科学省定義による）

子どもたちは、日々たくさんの友達や教職員、地域の方や家族とかかわりながら生活しています。学校では、子ども同士がお互いの気持ちを想像し、思いやりをもてる関係づくりを後押ししています。人との関わりの中で、心がふれ合う喜びや協力したからこそ得られる充実感を感じることがあれば、自分の思い通りに行かず、葛藤やあきらめといった感情を抱くこともあります。時には、けんかをして心ない言葉や、手が出てしてしまうこともあります。子どもは、人を傷つける言葉を言ったり、暴力で訴えたりしてはいけないことはよく分かっています。そんな時に、「どうしてそうしてしまったのか」「本当はどうしてほしかったのか」「これからどんなふうにしていきたいのか」という思いを言葉にして他者へ伝えていくことが大切だと感じています。子どもの思いを受け止め、導いていく大人の存在が他者への信頼をうみ、子どもの心を耕します。子どもがピンチの時こそ、周りの大人がつながることが大切です。「いじめ」や学校生活でお困りのことがありましたら、担任や児童支援専任までぜひご相談ください。子どもの様子に心を寄せて見守っていきましょう。よろしく願いいたします。

### 新しい講師の紹介

このたび、非常勤講師として **中島 美奈** が着任しました。主に個別支援級のサポートを担当します。どうぞよろしくお願いいたします。